

修士論文(要旨)

2020年7月

助詞トに関する一考察

指導 青山 文啓 教授

言語教育研究科

日本語教育専攻

218J3002

王 甜甜

Master' s Thesis(Abstract)

July 2020

A Study of the Particle 'TO'

Tiantian Wang

218J3002

Master' s Program in Japanese Language Education

Graduate School of Language Education

J.F. Oberlin University

Thesis Supervisor:Fumihiro Aoyama

目次

序論.....	1
1. 並列助詞トに関する先行研究およびその問題点.....	2
2. 並列助詞ト.....	4
2.1 「NP1 ト NP2 ト」の構造	5
2.2 並列構造と連体修飾語.....	6
3. 格助詞ト.....	7
3.1 対称関係以外の構造	9
3.2 「NP ト」と「NP ガ/ハ」構造.....	10
4. 接続助詞トに関する先行研究およびその問題点.....	12
5. 接続助詞ト.....	13
5.1 接続助詞トとは	14
5.2 引用の助詞トとは	16
6. 引用のトを含む接続詞.....	19
7. おわりに.....	19
注.....	20
参考文献	21

要旨：

助詞トは品詞から言うと、(a)並列助詞、(b)格助詞、(c)接続助詞の3つに分かれる。しかし、これまでの先行研究でトに関して品詞レベルでの言及は多いとは言えない。使用頻度の高い助詞トについて、日本語学習者にトの正確な使い分けを提示することは大切である。ここでは助詞トを例に、ある助詞の品詞レベルでの下位区分について考察する。

まずは並列助詞トから見てみよう。トが並列助詞だと判断する場合二つの基準がある：トの前後に名詞句が存在すること、もう一つはトを境に二つの名詞句が入れ替えられることである。

例えば「僕にとっての一九五〇年と一九六〇年は、不格好な揃いの服を着た醜い双子の兄弟のようなものである。」は「僕にとっての一九六〇年と一九五〇年は、不格好な揃いの服を着た醜い双子の兄弟のようなものである。」のように二つの名詞句を入れ替えることが可能である。

ただし、上記の基準にはテキストの校正に関わる例外がある。例えば「アンヘラ・ビカリオとその母親が、造花の入った籠をそれぞれ両手に持って、広場を通りかかった。」を「その母親とアンヘラ・ビカリオが造花の入った籠をそれぞれ両手に持って、広場を通りかかった。」に入れ替えることが許容されない。「その母親」は「アンヘラ・ビカリオ」の母親とは解釈されないからである。

次に格助詞との区別について取りあげる。「対称関係」を提示する述語のもとに現れる二つの名詞句が、もう一方の名詞句の「後方」に現れれば、トは格助詞である。例えば「俺は君と同じ理由で、昔のことを本当にひとつ残らず覚えているんだよ。」が挙げられる。

並列助詞のトと格助詞のトをいかに見分けるかという、「言表事態の中で同等の位置にある二つのモノの関係」、つまり「対称関係」にある二つの名詞句、「NP ト」は「NP ト」の名詞句を除くもう一方のモノに対応する名詞句の「前方」に現れるなら、トは並列助詞の解釈を受ける。「NP ト」は「NP ト」の名詞句を除くもう一方のモノに対応する名詞句の「後方」に現れるなら、トは格助詞の解釈を受ける。

ここで「接続詞」と呼ぶのは文字通り、文頭に用いられ二文間の関係を示す、助詞トから始まる一群の表現を指す。例えば「駅前が開発計画が急に取りやめになった。というのは、地域住民の強硬な反対で、マスコミまで騒ぎ出したからだ。」のような後続文が一般には、先行する文の理由を表わす。

最後に接続助詞トについて取りあげよう。広義の接続助詞トとは、引用の助詞トと狭義の接続助詞トとに二分される。本研究では、狭義のトを「接続の助詞ト」と新たに名付ける。引用の助詞トは助動詞や文の後方に使われる。それに対して、接続の助詞トの前方には動詞の終止連体形あるいは少数の助動詞しか来ない。

引用の助詞トの例文には“「ごめんなさい」と小さな声で彼女は言った。」”のような例文がある。主に伝達や思考行為を表わす動詞の前方に現れる。

接続の助詞トの例について、「彼らの姿が階段の上に消えると、また静けさが戻った。」が挙げられる。

助詞トを品詞レベルで下位分類するための基準は上記のようである。こうした考察の方向性が日本語研究者の一助になれば幸いである。

参考文献：

- 青山文啓(2000)「活用と統語—日本語とスペイン語との比較から」『日本語外国語との対照研究』くろしお出版
- 伊藤沙智子(2006)「評論データにおける接続助詞トの用法」『学習院大学人文科学論集』15
- 奥津敬一郎(1966)『拾遺 日本文法論』ひつじ書房
- 加藤陽子(1998)「話し言葉における引用の「ト」の機能」『世界の日本語教育』8
- 菊池浩三/伊東幸宏(1999)「連体形形容詞に先行する格助詞「が」「の」格の係りに関する体系的分析」『自然言語処理』6(7)
- 久野暉(1973)『日本文法研究』大修館書店
- 近藤研至(1996)「助詞トについて」上越教育大学国語教育学会
- 近藤研至(2010)「「並列助詞」トと「格助詞」トについて」上越教育大学国語教育学会
- 近藤安月子/小森和子(2012)『日本語教育事典』研究社
- 定延利之(1993)「深層格が反映すべき意味の確定にむけて—対称関係・対称性を利用して—」『日本語の格をめぐる』仁田義雄 [編] くろしお出版
- 鈴木義和(1986)「接続助詞「と」の用法と意味」『国文論叢』13(神戸大学)
- 寺村秀夫(1991)『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』くろしお出版
- 豊田豊子(1978)「接続助詞「と」の用法と機能(Ⅰ)」『日本語学校論集』5
- 豊田豊子(1979)「発見の「と」」『日本語教育』36
- 豊田豊子(1979)「接続助詞「と」の用法と機能(Ⅲ)—後件の行われる時を表す「と」—」『日本語学校論集』6
- 豊田豊子(1982)「接続助詞「と」の用法と機能(Ⅳ)—後件の行われるきっかけを表す「と」—」『日本語学校論集』9
- 豊田豊子(1983)「接続助詞「と」の用法と機能(Ⅴ)—因果を表す「と」—」『日本語学校論集』10
- 中俣尚己(2009)「名詞句並列マーカーの体系的な分析—「と」・「や」・「も」の差異に着目して—」『日本語の研究』5.1
- 仁田義雄(1974)「対称動詞と半対称動詞と非対称動詞—格成分形成規則のため—」『国語学研究』13(東北大学)
- 仁田義雄(1983)「動詞に係る副詞的修飾成分の諸相」『日本語学』2(10)
- 山崎誠(1993)「引用の助詞「と」の用法を再整理する」『国立国語研究所報告：研究報告集14』105